

自由民主党綱領

- 一、わが党は、民主主義の理念を基調として諸般の制度・機構を刷新改善し、文化的民主国家の完成を期する。
- 一、わが党は、平和と自由を希求する人類普遍の正義に立脚して、国際関係を是正し、調整し、自主独立の完成を期する。
- 一、わが党は、公共の福祉を規範とし、個人の創意と企業の自由を基底とする経済の総合計画を策定実施し、民主の安定と福祉国家の完成を期する。

JF FREEDOM DEMOCRACY PEACE

自民石川

http://www.hokuriku.ne.jp/jf-isikw

機関誌
第16号
自由民主党
石川県支部連合会
組織広報本部
金沢市鞍月5-255
TEL 076-237-0911(代)
FAX 076-237-0915

衆議院選挙 特集

県内3選挙区自民独占 小泉旋風 強い決意に圧倒的勝利!

1区馳氏、2区森氏、3区北村氏、 比例で瓦氏が揃い踏み当選



自民党県連の合同街頭演説会に臨んだ三候補者(9月2日)

小選挙区	石川1区	当	129,142	馳 浩	自前③
石川の確定得票	石川2区	当	129,785	森 喜朗	自前⑬
	石川3区	当	116,215	北村 茂男	自新①

第四十四回衆議院選は九月十一日、投票が行われた。自民党は単独で二百九十六議席を獲得し、圧勝。定数に対する議席率は池田内閣時の一九六三年衆議院選以来六割を超える歴史的勝利となった。自民、公明両党の与党では定数の三分の二にあたる三百二十議席を超えた。郵政民営化は信任され、小泉純一郎首相は続投する。小選挙区の平均投票率は67.51%と、九六年の小選挙区比例代表並立制導入以来、最高を記録した。

石川県内の小選挙区は、1区で自民比例前職の馳浩氏が民主前職の奥田建氏を約三万二千票上積みした。

約三万票差で制し三選、雪辱を果たした。2区は自民前職の森喜朗氏が民主比例前職の一川保夫氏らを退け十三選。3区は自民新人の北村茂男氏が民主比例元職の桑原豊氏を下して初当選し、自民が二〇〇〇年の前々回選以来、選挙区議席を独占した。比例代表北陸信越ブロックでは石川3区から比例に回った単独三位の前職瓦力氏が当選した。

1区の投票率68.71%が9.13ポイント上がり、投票総数が約三万三千票増えた分、馳氏に流れた計算になる。馳氏は自民、公明の支持者層を手堅くまとめ、民主や社民の一部の支持層も切り崩した。五十代を除く幅広い年齢層で、奥田氏を上回る支持を集めた。

2区 森氏の得票十二万九千七百八十五票は、二〇〇三年の前回選と比べて約一万五千票増やし、一川氏との票差も前回の約三万二千票から四万五千票に広がった。前回選は野々市町、旧美川町で一川氏を下回ったが、今回は全七市町で得票を伸ばし、圧倒した。

市町村合併の影響が注目されたが、白山市が前回の旧八市町村に比べて五千二百五十八票増、能美市も旧三町から七百七票増と、森氏に追い風となった。

3区最大の激戦地、七尾市では北村氏が四百四十四票の僅差(きんさ)で桑原氏に競り勝った。北村氏は地元輪島市での得票率79.25%は全十三市町でトップだった。

4人当選で快勝 矢田富郎 自民党県連 幹事長談話

比例代表を含め久しぶりに四人の衆議院議員を誕生させることができ、快勝と位置づけた。1、2、3区の有権者の良識に加え、小泉首相の台風のような後押しが効いた。県政における自民党の影響力は間違いなく大きくなると思うが、「勝つて兜(かぶと)の緒を締めよ」の気持ちで取り組んでいきたい。幸せな幹事長です。

文部科学副大臣 馳氏に スポーツ・教育分野のレベル強化に意欲

衆議院石川1区の馳浩議員が十一月二日、文部科学副大臣に就任した。馳氏は〇三年九月から〇四年九月まで文部科学政務官を務めており、教育行政、スポーツ振興施策などに通じている。就任の抱負で「大役を頂き興奮している。これから文科省にとって大変な時期、よい方向に結論が導かれるよう汗をかきたい」と意欲をみせた。

足かけ二十年 県民も待望の初入閣 沓掛哲男参議院議員 国家公安委員長・防災・有事法制担当大臣 瓦氏以来 県関係議員の初入閣

十月三十一日に発足した第三次小泉改造内閣で、参院石川選挙区の沓掛哲男氏が初めて入閣し、国家公安委員長・防災相に起用された。地元で祝福と期待の声がわき起こる中、沓掛氏は「適役をいただいた」と表情を引き締め、小泉改革総仕上げの一翼を担うべく、決意を新たにしている。

同日東京都内で開かれた祝賀会で、森前首相は「最も得意とする分野で活躍を。石川のためにも大いにやってほしい」と激励。沓掛氏は「ぎりぎりまで分かったが、(初入閣)は皆さんの強いご支援のおかげであり心から感謝します。一生懸命頑張りたい」と謝辞と抱負を語った。

県関係国会議員の初入閣は、二〇〇〇年に森喜朗氏が首相に就任したのをのぞけば、瓦力氏が防衛庁長官で三度目の入閣を果たした九九年以来、六年ぶり。県関係国会議員の初入閣も、同じく瓦氏が同長官に就いた一九八七(昭和六十二年)十一月以来となる。



県民ニーズに対応した様々な活動を展開

石川県連2005年度活動報告

県政重点施策取りまとめ活動にウエイトを置き、拉致問題の早期解決を訴える街頭遊説や衆院選・知事選対策を精力的に展開。中曽根康弘先生を招き県連立党50周年記念講演会を開催。

◆4月26日

県政記者クラブとの懇談会 (金沢ワシントンホテル)
県政の諸課題についてマスコミ各社の記者と懇談する。

◆5月9日

県連組織広報本部会議 (県連)
本年度の活動計画について協議する。

◆5月24日

地域支部事務長会議 (県連)
本年度党員募集を始め、事務全般について協議する。特に市町村合併後の支部組織について、本部方針に沿い、原則として合併前の従来の組織継続を求めた。なお、地域の事情によって新市・町単位に統合した場合は、旧市町村ごとに部会等を設け、きめ細やかな活動の継続を求めた。

◆5月25日

県連青年局長・青年部長会議 (大会に代わる) (県連)



会計報告等、昨年度の活動報告と本年度の計画について協議するとともに、新役員を選出する。

◆6月5日

全国一斉街頭遊説 (香林坊にて)

党本部指導により「北朝鮮による日本人拉致問題の早期全面解決」をテーマとし、13:45より全国一斉街頭遊説を実施する。



◆6月7日

全国女性局長・政策審議委員合同会議 (党本部)

今春より各県連女性局で実施されていた「子供happyプロジェクトアンケート」の全国集計結果が報告された。

◆6月14日~15日

県連女性局中央研修会 (党本部)

党本部において、後藤田正純 衆議院議員より、自身の子育て奮戦と子育て支援についての講演を聴く。40名参加。



◆6月22日

全国青年局長・青年部長合同会議 (党本部)

今年度重点活動事項の進捗状況について報告。

◆7月5日~15日

地域支部訪問

18年度県予算に対する要望について意見聴取する。併せて、知事選についての意見を伺う。



○7月5日 加賀方面訪問



○7月7日 口能登~中能登方面訪問



○7月8日 奥能登方面訪問



○7月15日 金沢支部訪問

◆8月2日

県政懇談会 (赤坂プリンスホテル)

県連主催による、県政重点施策について、自民党国會議員、県連役員と知事、県執行部との懇談会。



◆8月8日

衆議院解散

郵政民営化法案が参議院で否決され、小泉総理は「もう一度国民に聞いてみたい」と述べ「国民投票」で郵政民営化に再挑戦するための解散と位置付けた。

◆8月30日

第44回衆議院議員総選挙公示

◆9月11日

第44回衆議院議員総選挙投票日



◆9月13日

県連役員会 (県議会)

第44回衆議院議員総選挙の総括について、その他。

◆9月21日

友好団体訪問 (写真は建設業協会)

18年度県予算に対する要望について各団体より意見聴取する。



◆9月27日

県連役員会 (県議会)

知事選挙対策について、各種選挙対策について。

◆9月27日

県議員協議会 (県議会)

9月16日、わが党の県議会代表質問に答えて、谷本知事が出馬表明。改めて議員協議の場において支援要請を行う。

◆10月4日

県連役員会 (県議会)

支援要請を受けている谷本知事との政策確認について、意見集約を見送り、内容を調整した上、再度諮ることを申し合わせる。

◆10月5日

県連立党50周年記念講演会 (ホテル日航金沢)

講師 元内閣総理大臣・自民党総裁 中曽根 康弘先生



「歴史的転換期の日本一国家の基本問題について」と題して記念講演した。中曽根先生は、21世紀に日本が立派な国として、世界に向かって堂々と前進して行くには、自主憲法制定が必要と強調。十分に議論し、成熟させるためにも、焦らず5年ぐらいのスパンで慎重に進めることが必要と示した。参加者1,200名。

◆10月5日

県連役員会 (ホテル日航金沢)

谷本知事と政策確認書を交わすことを決め、確認書の骨格をまとめた。

◆10月7日

谷本知事と政策確認書を交わす

矢田幹事長より谷本知事に政策確認書を提示し、谷本知事から正式な回答書を受け取った。

◆10月8日

総務会・選挙対策委員会合同会議 (金沢エクセルホテル東急)

知事選挙対策について、今日までの経緯経過の説明と、昨日の政策確認書の取り交わしを報告し、現職谷本正憲氏の推薦を決定し、党本部への上申を了承する。



◆10月31日

第三次小泉改造内閣発足

杵掛哲男先生 国家公安委員長・防災担当大臣就任。

11月2日、馳浩先生、文部科学副大臣就任。

谷本知事の推薦決定

来春知事選で県連

二〇〇六年三月二十六日に任期満了の県知事選で、自民党県連は、十月八日開いた総務会・選挙対策委員会の合同会議で、四選を目指す谷本正憲知事の推薦を決めた。推薦決定後、谷本知事は「人口減少時代に対応するため、次の四年間は従来にも増して真剣な取り組みが必要。県民の支持が得られれば、引き続き県政のかじ取り役を担わせてほしい。満場一致の推薦決定に心から感謝したい」とあいさつした。

合同会議では冒頭、県連会長の馳浩衆議院議員は、先の衆院選で県内から四人が当選したことについて謝意を述べるとともに「次の課題は知事選」とあいさつ。矢田富郎幹事長が「各支部への姿勢や県政への取り組みを評価する声が多かった」などと協議経過を報告し、向出勉政調会長が既に谷本知事と合意した「自民党と連携、協調を旨とする」とした政策確認書の内容を説明。一部から慎重審議を求める意見も出たが、最終的には満場一致で推薦が決まった。

席上、党本部に推薦申請する方針が示されたほか、選対本部の設置時期は各党各会派の動向を見ながら執行部に一任。知事選とともに実施される能美市能美郡、河北郡両選挙区の県議補選の対応について、矢田氏が地元支部などと連携を緊密にして公認候補を擁立する考えを示した。

谷本知事と政策確認

自民党石川県連は十月七日、来春の知事選で四選を目指す谷本正憲知事と交わす

「政策確認書」を谷本知事に提出し、双方が合意。県連の矢田富郎幹事長が県庁に谷本知事を訪ね、「調印するようなものではないが、確認していただきたい」と手渡した。谷本知事は「いずれも大事な事柄ばかりなので、十分に尊重してまたやらせていただきたい」と応じた。

確認書では、北陸新幹線金沢開業を見据えた県の新長期ビジョンの策定、旧県庁跡地の当面の利用計画の早期策定など、県連が大会決議している重要施策の推進に誠実な対応を求めた上で、四選した場合は自民党と「連携、協調」するよう申し入れている。

小泉総裁 谷本正憲氏に推薦証を交付

来春の知事選で、自民党の小泉純一郎総裁は十一月十四日、党本部において現職の谷本正憲氏に推薦証を交付した。交付式には武部篤幹事長、県連会長の馳浩文部科学副大臣、矢田富郎県連幹事長らが同席した。

党員募集について

自民党石川県連では、平成17年度の党員を募集しています。入党希望の方は所在地の地域支部、職域支部を通じてお申込みください。

☆党費 (年間) 一般党員 4,000円
家族党員 2,000円

『りぶる』を愛読してみませんか

公党で唯一の女性政党誌を購読してみませんか。購読希望の方は自民党石川県連までお申込みください。

★発行月一回 年間購読料 3,600円